



いよいよ開館 100 日前！鳥取県立美術館 オープニング・ラインナップのご案内



2025年3月30日、待望の鳥取県立美術館が開館します。

鳥取県立博物館から美術部門を独立させ、県立美術館として後発であることの強みを生かし PFI 手法の採用¹など、さまざまな新しい可能性を取り入れ、新時代の美術館にふさわしい施設として出発いたします。

世界的に高名な建築家・槇文彦氏が率いた槇総合計画事務所と竹中工務店の設計共同事業体による建築は、大御堂廃寺跡を臨み、美術館としては異例の陽光があふれる開放的な広がりの特徴としています。私たちはこの美術館に「OPENNESS! (オープンネス)」というブランドワードを与え、新しい美術館の理念といたしました。OPENNESS! とは単に明るく開かれた空間という美術館建築の特性のみならず、さまざまな価値観に対して開かれ、新しい価値を創り出すことを恐れない美術館の精神を象徴します。“学芸員の顔が見える”美術館としても、親しみを持っていただき、美術館の内にとどまらず、アートを地域社会にひらき、つながりを作り、確かなものとして根付かせ、県民の誇りとなる美術館を目指します。

開館に先駆け、2025年3月28日に開館記念式典及び関係者・プレス内覧会、翌29日には『みんなで“つくる”美術館の誕生日パーティー』をテーマにオープニングイベントを開催します。

3月30日には開館記念展「アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術ー若冲からウォーホル、リヒターへー」が開幕し、来館者を迎えます。

美術館は誰に対しても開かれた公共空間として、館内の展示や回遊を楽しんでいただき、さらに「アートを通じた学び」の拠点、アート・ラーニング・ラボ（通称 A.L.L.）としての役割も果たしてまいります。

美術をめぐる人と作品、情報の結節点として、来場した皆様が美術を浴びるように享受できる場所となることをめざします。最後発の、新しい美術館の挑戦に、どうぞご期待ください。



鳥取県立美術館館長
尾崎信一郎(おさき・しんいちろう)

¹ 公立美術館の新設・運営の PFI 事業は、全国初の取組み



◎開館記念式典・内覧会

2025年3月28日(金) 開館記念式典・内覧会・記念シンポジウム①

2025年3月29日(土) オープニングイベント・記念シンポジウム②

※オープニングイベント・記念シンポジウム①②については別途プレスリリースを予定しています。

◎オープニング・ラインナップ

<企画展>

鳥取県立美術館開館記念展

アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術ー若冲からウォーホル、リヒターへー

2025年3月30日(日)～6月15日(日)

水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 ～お化けたちはこうして生まれた～

2025年7月19日(土)～8月31日(日)

The 花鳥画ー日本美術といきものたちー

2025年10月11日(土)～11月24日(日・祝)

CONNEXIONS コネクションズー接続するアーティストたちー

2026年2月7日(土)～3月22日(日)

<コレクション展>

コレクションギャラリー3 | 鳥取県の彫刻ー辻晋堂の世界 01/鳥取県の工芸ー絣織の美

コレクションギャラリー4 | 鳥取県の版画と写真 01

コレクションギャラリー5 | 因伯の画家たちー近世絵画編

<屋外彫刻作品>

<プログラム・県民参画>

アート・ラーニング・ラボ Art Learning Lab. (A.L.L) の取組

美術を「深める」プログラム/美術館を「ひらく」プログラム

ボランティア「TMOA+ (ティーモア・プラス)」

貸館・ユニークベニュー

◎美術館のご紹介

<附帯事業>

ミュージアムショップ

ミュージアムカフェ

<基本情報>

ミッションステートメント

事業概要・沿革

開館時間・休館日・料金・アクセス



◎2025年3月28日(金) 開館記念式典・内覧会

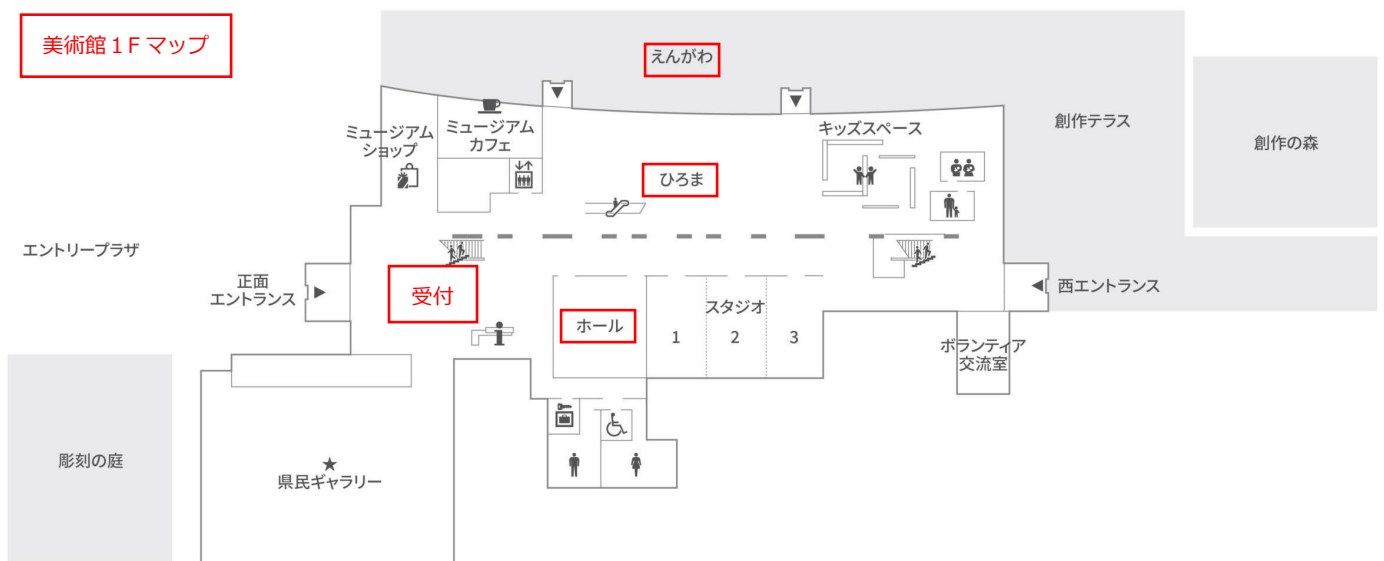
時間	内容	会場	参加対象
10:00-10:40	開館記念式典	1F ひろま	知事ほか来賓
10:45-10:55	テープカットセレモニー	1F えんがわ	知事ほか来賓
11:00-12:30	関係者内覧会①	美術館全体	知事ほか来賓
12:00-12:30	プレス説明会・館長 Q&A	1F ホール	プレスの皆様
13:30-16:30	関係者内覧会②	美術館全体	来賓
14:00-16:00	記念シンポジウム①	1F ひろま	一般・来賓

●ご取材希望の場合は3月20日(木)までに下記フォームよりお申込みください。

【申込フォーム】 <https://forms.gle/Np1wrgbse4GfMKnN7>

●12:00-12:30 は1F ホールにて、プレスの皆様を対象に、開館記念展/コレクション展の見どころポイントをご紹介します。また、館長が皆様からのご質問にお答えします。

※個別のインタビュー等ご要望の場合はあらかじめお知らせください。





鳥取県立美術館開館記念展

ART OF THE REAL アート・オブ・ザ・リアル

時代を超える美術—若冲からウォーホル、リヒターへ—

会期：2025年3月30日（日）～6月15日（日）

会場：3F 企画展示室、2F コレクションギャラリー1・2



鳥取の芸術、世界の芸術

—何が“リアル”かをめぐる美術家たちの挑戦の軌跡

対象を「リアル」に表現することは、美術家たちにとって大きな課題でした。洋の東西、時代を問わず、美術の中には迫真性や写実性に向かう一つの方向性が認められます。しかし印刷術や写真術が発明され、私たちが目にするイメージが機械によっても複製、再現可能であることが明らかになった後、美術家たちは別の「リアル」を探求することになります。

見えるままの「リアル」ではなく、絵画において可能な「リアル」、合理性の背後に広がる「リアル」を超えた光景、奇抜で誇張された「リアル」、あるいは日常や生活の中の「リアル」。

この展覧会では江戸絵画から現代美術、国内外のさまざまな作家によって制作された約 180 点の作品を「リアル」をキーワードとして読み解いていくことを試みます。「リアル」の意味を限定することなく、それぞれの作家、作品にとっての表現の必然性、美術の多様な可能性と読み替えることによって、鳥取県立美術館がカバーする広い範囲の美術が独自かつ一貫した視野の中に浮かび上がってくるでしょう。

県立としてはほぼ最後発となる鳥取県立美術館の開館にあたって、当館のコレクションを日本各地の美術館、関係施設から借り受けた名品の数々とともに展示することによってもう一度コレクションの骨格を確認するとともに、これからの美術館の未来を見通す機会としたいと願っています。「リアル」という視点を得て一新される美術という営みの奥行きを皆様の眼でお確かめください。

時代を超えた名品・名画の競演！出品作家 100 名以上、約 180 点を一堂に展示！

【主な出品作家】

朝倉文夫 | 阿部合成 | カール・アンドレ | 石内 都 | 石原友明 | 伊藤若冲 | 植田正治 | アンディ・ウォーホル | 潮田登久子 | 内田 巖 | 岡上淑子 | 沖 一峨 | ソフィ・カル | 河原 温 | 岸田劉生 | 木下 晋 | 草間彌生 | スラシ・クソンウォン | イヴ・クライン | トニー・クラッグ | ギュスターヴ・クールベ | チャック・クロース | 小出檜重 | 古賀春江 | 小早川秋聲 | 坂田一男 | アウグスト・ザンダー | 塩田千春 | 志賀理江子 | 下道基行 | 島 成園 | 島田元旦 | アルベルト・ジャコメッティ | ドナルド・ジャッド | 白髪富士子 | 菅 橋彦 | 鈴木其一 | 須田悦弘 | フランク・ステラ | 曾我蕭白 | 高橋由一 | 高松次郎 | 竹内栖鳳 | 谷 文晁 | 陳 進 | 沈 南蘋 | 津上みゆき | 辻 晋堂 | 土田麦僊 | リクリット・ティラヴァニ | ウォルフガング・ティルマンス | ジョルジュ・デ・キリコ | マルセル・デュシャン | 照屋勇賢 | 富井大裕 | 長沢芦雪 | 浜田浜雄 | 速水御舟 | パブロ・ピカソ | 土方頼綱 | 藤田嗣治 | ルチオ・フォンタナ | 舟越 桂 | フランシス・ベーコン | ヨーゼフ・ボイス | 前田寛治 | ルネ・マグリット | 松岡映丘 | アンリ・マティス | 円山応挙 | ピエロ・マンゾーニ | 三木富雄 | 三岸好太郎 | 三島喜美代 | クロード・モネ | ジョルジュ・モランディ | ロバート・モリス | 森村泰昌 | やなぎみわ | 山下菊二 | 山元春挙 | 吉原治良 | ゲルハルト・リヒター | オーギュスト・ロダン | 渡辺 武 など

※章立て・主な作品は別添のチラシに詳しくご紹介しています



■**展覧会をもっと楽しむために**■

【音声ガイド】

江戸／現代、日本／海外等の枠を超えた「リアル」をめぐる挑戦の軌跡を、のんさんがナビゲートします。音声ガイドはウェブアプリにてご用意していますので、ご自身のスマートフォンをご持参ください。



ナビゲーター：のん

ガイド点数：常時18点（展示替え作品あり） 解説時間：約30分

言語：日本語、英語 料金：無料

企画・制作：スタイリンクス

のん（俳優・アーティスト）

2022年9月、映画『さかなのこ』で、第46回日本アカデミー賞「優秀主演女優賞」受賞。
2024年12月、主演映画「私にふさわしいホテル」公開。DMMTVでの実写ドラマ「幸せカナコの殺し屋生活」2025年2月公開。第16回伊丹十三賞を受賞。

■**関連イベント**■ （※参加方法・詳細は公式サイトをご覧ください。この他にも関連プログラムを開催予定です。）

【**スペシャルトーク**】定員：各回50名（事前申込優先・先着順）＊聴講無料 会場：1Fホール
聞けばますます面白い！各分野の専門家による特別レクチャー開催

◎4月12日（土） 14:00-15:30

「江戸絵画史における鳥取画人たち」講師：安村敏信（静嘉堂文庫美術館長）

◎4月26日（土） 14:00-15:30

「ウォールアート—20世紀を映した鏡」講師：宮下規久朗（神戸大学大学院教授）

◎5月24日（土） 14:00-15:30

「『アート・オブ・ザ・リアル』をめぐる」講師：尾崎信一郎（鳥取県立美術館長）

◎6月7日（土） 14:00-15:30

「美術とジェンダー 石内都とやなぎみわを中心に」講師：笠原美智子（長野県立美術館長）

【**ワークショップ**】会場：1Fスタジオ2・3 対象：子どもから大人まで（小学3年生以下は保護者同伴）

◎5月10日（土） 13:30-16:30

「リヒターの表現に挑戦！～抽象絵画をつくろう」＊事前申込・有料

この絵ってどんな風に描いているの？ アーティストの発想・手法に触れてみよう！

◎5月11日（日）、18日（日）、25日（日） 10:00-12:00、14:00-16:00

「なんじゃコラージュ」＊時間中随時受付・無料

出品作品にも用いられているコラージュという技法で「なんじゃこりゃ！」を表現しよう！

【**ギャラリートーク**】「学芸員のイチ推し」

◎会期中の毎週日曜日 14:00-15:00

当館の学芸員が本展出品作の中からそれぞれの推し作品についてお話しします。



【展覧会概要】

展覧会名	アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術 ー若冲からウォーホル、リヒターへー
会期	2025年3月30日(日)～6月15日(日) ・半期展示替：前期3月30日(日)～5月11日(日)、後期：5月13日(火)～6月15日(日) ・3期展示替：前期3月30日(日)～4月20日(日)、中期：4月22日(火)～5月18日(日)、後期：5月20日(火)～6月15日(日)
会場	鳥取県立美術館 企画展示室、コレクションギャラリー1・2
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで) ※夜間開館日 5月3日(土)、6月14日(土)は21時までご覧いただけます
休館日	月曜日(3月31日、4月28日、5月5日は開館)
観覧料	一般 1,600 (1,250)円、学生 1,000 (800)円、高校生 500 (400)円、 小中学生 300 (240)円 * ()内は前売料金・20名以上の団体料金 ※未就学児、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
主催	アート・オブ・ザ・リアル展実行委員会 (鳥取県、鳥取県立美術館パートナーズ、TSK さんいん中央テレビ)
特別協力	東京国立近代美術館
公式サイト	https://tottori-moa.jp/exhibition/view/exhibition-01/

【チケット情報】

スムーズにご入場いただけるよう、日時指定オンラインチケットを販売中です。

チケット販売サイト：<https://artsticker.app/events/50427>

●“超早”前売チケット …2024年11月1日～12月31日(前売り価格)

●前売チケット …2025年1月6日～3月29日(前売り価格)

※会期中は、美術館窓口でも当日券を販売いたします。

※企画展のチケットでコレクション展もご覧いただけます。



水木しげるの妖怪 百鬼夜行展

～お化けたちはこうして生まれた～

会期：2025年7月19日（土）～8月31日（日）

2025年・真夏の鳥取に水木しげるの妖怪画が大集合！！

現代の日本人に妖怪文化を根付かせた漫画家・水木しげるが、どのように妖怪と向き合い描いてきたのか、具体的手法に注目した展覧会です。水木所蔵の妖怪関係資料を初公開すると共に、百鬼夜行の名にふさわしく、妖怪画100点以上を一挙に公開します。

関連ワークショップも進行中！

美術家 高橋匡太によるアートプロジェクト『雲の故郷へ』が2024年10月からスタート。民話や妖怪の伝承が残る県内各地を巡るワークショップ「雲の遠足」を実施しています（2025年春も実施予定）。携えた「雲の風船」は、インスタレーション作品『雲の故郷へ』の一部になり、記念写真は写真絵巻「鳥取百寄野行絵図」となって、企画展会期中に鳥取県立美術館の「ひろま」を中心としたフリースペースに展示します。

（詳細ページ <https://tottori-moa.jp/news/7423/>）



©水木プロダクション



©TAKAHASHIKYOTA 撮影・村上聖

【展覧会概要】

展覧会名	水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 ～お化けたちはこうして生まれた～
会期	2025年7月19日（土）～8月31日（日）
会場	鳥取県立美術館 企画展示室
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで) ※夜間開館日（7/19(土)、20(日)、8/9(土)、10(日)、30(土)、31(日)）は21:00まで
休館日	月曜日（7/21、8/11は開館）、7/22(火)
観覧料	一般 1,500 (1,200)円、学生 950 (750)円、高校生 500 (400)円、 小中学生 300 (240)円 * () 内は前売料金・20名以上の団体料金 ※未就学児、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
主催	水木しげるの妖怪 百鬼夜行展 鳥取会場 実行委員会 (鳥取県、鳥取県立美術館パートナーズ、日本海テレビジョン放送株式会社)、 NHK 鳥取放送局、NHK エンタープライズ中国支社
企画協力	水木プロダクション
制作協力	NHK プロモーション
公式サイト	https://tottori-moa.jp/exhibition/view/exhibition-02/

※展覧会の詳細情報は2月中旬に発信予定です



<企画展・秋>

The 花鳥画—日本美術といきものたち—

会期：2025年10月11日（土）～11月24日（月・祝）

めでたしうるわし ときにいさまし？

日本の絵画・工芸作品には、花や鳥、動物、昆虫、魚など、様々な動植物が登場します。時に可愛く、時に華麗で、時に勇壮一。江戸時代の多彩な「花鳥画」作品を中心に、人々がいきものたちに見出した「美」の諸相をご紹介します。



鳥田元旦 《花鳥図押絵貼屏風(部分)》天保8年(1832)

伊藤若冲「花鳥魚図押絵貼屏風」を初公開！

令和5年度に収集した若冲円熟期の墨画の傑作「花鳥魚図押絵貼屏風」を、収集後初めて公開します。



伊藤若冲 《花鳥魚図押絵貼屏風》江戸中期 八曲一隻

【展覧会概要】

展覧会名	The 花鳥画—日本美術といきものたち—
会期	2025年10月11日(土)～11月24日(月祝)
会場	鳥取県立美術館 企画展示室
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日(10/13、11/3、11/24は開館、)10/14(火)、11/4(火)、11/5(水)※ ※11/5(水)は閉室日(美術館は開館) ※展示替あり 前期10/11(土)～11/3(月祝) 後期:11/6(木)～11/24(月祝)
観覧料	一般1,200(950)円、学生750(600)円、高校生500(400)円、 小中学生300(240)円 * ()内は前売料金・20名以上の団体料金 ※未就学児、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
主催	The 花鳥画展実行委員会 (鳥取県、鳥取県立美術館パートナーズ、TSKさんいん中央テレビ)
公式サイト	https://tottori-moa.jp/exhibition/view/exhibition-03/

※展覧会の詳細情報は2025年春以降に発信予定です



CONNEXIONS コネクションズ

—接続するアーティストたち—

会期：2026年2月7日（土）～3月22日（日）

いま世界の先端に立つ、表現者たちの最新作を紹介

分断が深刻化する時代に、異なる領域やさまざまな文化を結びつけ、未知の世界と接続し、新たなつながりを作り出すことで美術表現を更新する新進気鋭のアーティストたちを招聘し、作品を通じて未来の社会の姿、その有り様を展望することを試みます。



mamoru zczecin（ポーランド）でのワークショップの様子

2024年5月15日

参加予定アーティスト ※他数組参加予定

mamoru（サウンド・アーティスト／1977年大阪出身）

2016年ハーグ王立芸術アカデミー／王立音楽院（オランダ）アーティストティック・リサーチ修了。「リスニング」を通じて得た発見を声／語り／歌、文字／字幕、フィールドレコーディング、音楽、映像などを素材にパフォーマンスやインスタレーション作品として発表。

刷音（Sure-in）（クリエイター集団／2018年結成）

2018年よりミュージシャン、美術家、デザイナー、フォトグラファー、パフォーマーなど約40名のメンバーからなるクリエイター集団として活動開始。南京（中国）と東京を拠点に、国際的な禍根となっている歴史問題を挟みつつも自由なテーマや手法で遊び場を作る活動を行う。

マリアンナ・クリストフィデス（アーティスト／1980年キプロス生まれ）

2016年ハーグ王立芸術アカデミー／王立音楽院（オランダ）アーティストティック・リサーチ修了。「リスニング」を通じて得た発見を声／語り／歌、文字／字幕、フィールドレコーディング、音楽、映像などを素材にパフォーマンスやインスタレーション作品として発表。

【展覧会概要】

展覧会名	CONNEXIONS コネクションズ —接続するアーティストたち—
会期	2026年2月7日（土）～3月22日（日）
会場	鳥取県立美術館 企画展示室
開館時間	9:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	月曜日（2/23は開館）、2/24(火)
観覧料	一般 1,200 (950)円、学生 750 (600)円、高校生 500 (400)円、 小中学生 300 (240)円 * () 内は前売料金・20名以上の団体料金 ※未就学児、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料
主催	CONNEXIONS 展実行委員会
公式サイト	https://tottori-moa.jp/exhibition/view/exhibition-04/

※展覧会の詳細情報は2025年春以降に発信予定です



<コレクション展（常設展）>

一般 400 (団体 320)円、学生・70 歳以上 200 円

観覧料

※高校生以下、障がいのある方・難病患者の方・要介護者等及びその介護者は無料

※企画展のチケットをお持ちの方は当日コレクション展もご覧いただけます

■コレクションギャラリー3 | 鳥取県の彫刻－辻晋堂の世界 01／鳥取県の工芸－絣織の美

「辻晋堂の世界」では、石膏や木、セメント、焼きものなど幅広い素材と向きあって来た彫刻家の多様な仕事の全体像を俯瞰するとともに、ヴェネツィア・ビエンナーレに出品された代表作なども紹介します。

「絣織の美」では、鳥取県における工芸文化を代表するものの一つとして今も織り続けられている絣織について、当館の所蔵品に加えて、県内の絣蒐集家である村穂久美雄氏の所蔵品と、倉吉博物館からの特別出品資料により紹介します。

(特別協力：村穂久美雄氏、倉吉博物館)

[会期] 2025年3月30日(日)～5月18日(日)

[URL] https://tottori-moa.jp/exhibition/view/collection3_2501/

辻晋堂《沈黙》1957年

■コレクションギャラリー4 | 鳥取県の版画と写真 01

写真分野では、鳥取県の写真界を牽引した塩谷定好、植田正治をはじめ、岩宮武二や杵島隆の代表作を展示し、鳥取の写真文化の豊かさを紹介します。版画分野では、「日本の城」シリーズで全国的に知られる橋本興家のほか、野崎信次郎、物部隆一らの代表作を展示します。

[会期] 2025年3月30日(日)～5月25日(日)

[WEB] https://tottori-moa.jp/exhibition/view/collection3_2501/

橋本興家《雨》1966年

■コレクションギャラリー5 | 因伯の画家たち－近世絵画編

鳥取藩では、お抱えの御用絵師のみならず、武士や儒者、農家や商人など、様々な背景をもつ有力な画人たちが活躍しました。当館と鳥取県立博物館のコレクションより、華やかな絵画文化が花開いた江戸後期の因幡・伯耆地方の画家たちをご紹介します。

御用絵師として画名の高い土方稻嶺、片山楊谷、沖一峨をはじめ、武士ながら画をよくした島田元旦、黒田稻臯、橋本秀峰らのほか、藩儒として詩書画を究めた建部樸斎や正垣適処、豪農として活動する傍ら四条派の画法を学んだ船越寛一、大仙寺の学僧でありながら画をよくした嗒然など、様々な出自や文化的背景を持った因伯の力ある画人たちを一堂にご紹介します。

[会期] 2025年3月30日(日)～5月25日(日)

[WEB] https://tottori-moa.jp/exhibition/view/collection5_2501/

沖探容《四季富士図》江戸時代(19世紀)

※5月下旬以降のスケジュールは別添の一覧表をご参照ください



<屋外彫刻作品>

<屋外彫刻作品>

青木野枝 《しきだい》

《しきだい》は、コールドテン鋼という鉄を円形に溶断し、溶接して作られた、3つの逆円錐形状の彫刻です。高さは約3.9メートルで、鳥取県中部の製鉄や鍛冶の歴史、そして美術館の立つ場所やその存在に思いをさせ、制作されました。美術館の入口に立ち、存在感を放ちながら私たちを迎え入れます。



東側エントリープラザに設置された《しきだい》



青木野枝 (あおき・のえ 1958年～)

東京に生まれる。1983年武蔵野美術大学大学院彫刻コース修了。現在は埼玉県内にアトリエを持ち、内外での彫刻展、現代美術展に参加。美術館での個展も多数開催。東京や大阪、倉敷などに野外彫刻も多く設置され、美術館での作品所蔵も多い。

【屋外彫刻計画のコンセプト】

美術館が立地する倉吉市は以前より屋外彫刻による街づくりを進めており、美術館の近くには彫刻プロムナード(※)も設置されています。

鳥取県立美術館ではこのような倉吉市の取り組みと連動しつつも、屋外彫刻の多様性を実感できるような独特の作品を、近年活躍のめざましい彫刻家たちに依頼することにいたしました。

量塊として成立する従来の彫刻に対して、内部に空虚を内包する青木野枝による《しきだい》はその一例であり、「OPENNESS! (オープンネス)」という美術館のブランドワードを体現するかのようです。

このほかにも来場者に刺激を与え、いつまでも愛される屋外彫刻を順次設置していく予定にしています。

※参考リンク | 倉吉観光情報：緑の彫刻プロムナード <https://www.kurayoshi-kankou.jp/promenade/>

【その他の作品の設置計画】



※その他の作品の設置スケジュール等詳細については後日発信予定です



<プログラム・県民参画>

アート・ラーニング・ラボ Art Learning Lab. (A.L.L.) の取組



A.L.L. ロゴマーク

子どもたちをはじめ、すべての人がアートを身近に感じ、楽しめることを目指し、アートを通じた学びにまつわる研究室アート・ラーニング・ラボ (A.L.L.) を設置します。「A L L = すべての人」とアートを共有したいという意図を含め、学校や公民館、外部の研究機関等と連携して、開館準備の段階から、いくつかの事業を試行し、実践・検証を重ねています。

- 子どもたちをはじめとするすべての人が、アートを身近に感じて楽しむことを目指して、アートを通じた学びにまつわる調査研究と事業実践を推進します。
- 鳥取県内の小学4年生を美術館に招待する取組などにより、美術館と学校との連携強化を図ります。
- 対話鑑賞のノウハウの伝達や授業相談対応など、多岐にわたる学校内外でのアートを通じた学びをサポートします。
- 学校教育だけでなく、こどもも大人も、障がいの有無や美術ファンであるか否かを問わず、幅広く様々な人がアートに親しんで創造性をはぐくみ、アートを通じて交流できる環境づくりを行います。



コレクション宅配便



MUSEUM START BUS



対話鑑賞ファシリテーター養成研修

※詳細は別添のリーフレットをご参照ください

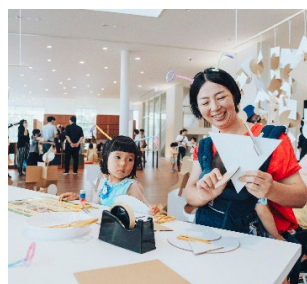
美術を「深める」プログラム／美術館を「ひらく」プログラム

鑑賞体験や創作活動といった美術の文脈でのプログラムだけでなく、美術館の多様な楽しみ方を提案し、間口を広げるプログラムを計画しています。土日/平日、対象を問わず「美術館＝いつでも何か楽しいことがある場所」になるよう多様な体験プログラムを、年間を通じて実施していきます。

【実施例】



- 美術を「深める」プログラム
 - ・ 展覧会での対話鑑賞
 - ・ 学芸員によるギャラリートーク
 - ・ 作家を招いたトークイベント
 - ・ じっくり取り組むものづくり



- 美術館を「ひらく」プログラム
 - ・ いっしょにみてみてすいようび (仮)
 - ・ 絵本の読み聞かせ
 - ・ 気軽に参加できる工作ワークショップ
 - ・ ランチとセットでミュージアムピクニック



※各プログラム詳細はウェブサイト等で順次発信します



ボランティア「TMOA+」（ティーモア・プラス）

ティーモア・プラスは、「みんなで作る美術館」を実現するためのボランティア制度です。

TMOA+として美術館を拠点とした「人と人」「人と作品」「人と出来事」をつなぐ活動へ参加し、より深く美術館を楽しんでいただくことで、美術館をつくる“プラスの力”が生まれます。

TMOA+の仲間や来館者、美術館スタッフとの交流の中に、新たな出会いやそこにしかない体験の機会を創出していきます。

登録者数：292名（2024年11月末現在）

2022年～2023年 対話会、プレ活動

2024年 6月～9月 募集登録期間

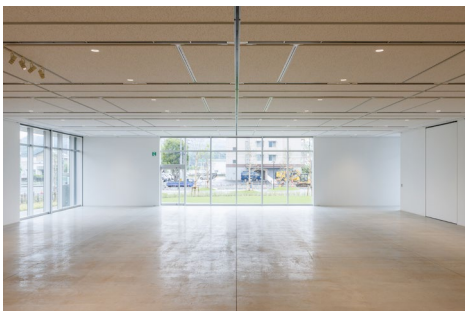
2024年 11月～1月 各種研修実施

2025年 3月 交流会、活動準備



（詳細ページ <https://tottori-moa.jp/initiative/player-supporter/>）

貸館・ユニークベニュー



県民ギャラリー

約500㎡（分割利用可能）の県民ギャラリーを新設。

ワークショップが開催できるスタジオ、レクチャーが開催できるホール、レセプションが開催できる開放感あふれるひろま・えんがわなど、館内施設をお貸出しし、皆さまのつどいと出会いの場所となることを目指します。

開館後の県民ギャラリーへの申込数：30件（12月現在）

また、ユニークベニューとして貸切で美術館を利用することが出来る仕組みも設けています。開放感溢れる空間を利用したファッションショーやレセプション、各種イベント開催が可能です。

（詳細ページ <https://tottori-moa.jp/visit/space-for-rent/>）



ウェディングフォト
ホテルセントパレス倉吉提供

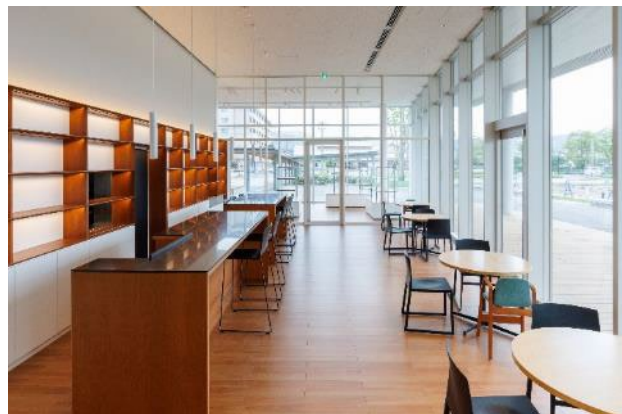
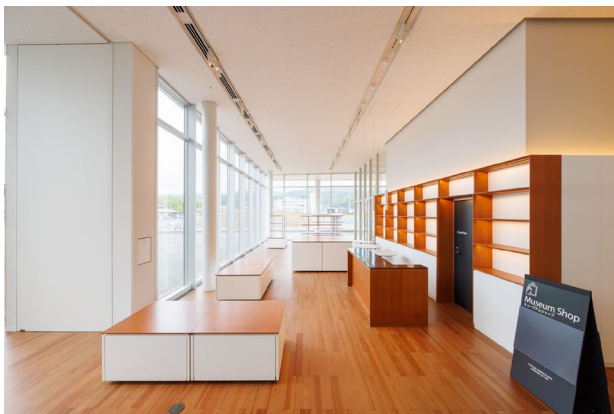


< 附帯事業 >

◎美術館のご紹介

< 附帯事業 >

鳥取県立美術館の開館に合わせ、館内ショップ・カフェも営業を開始します。どちらも日常利用もしやすいフリーエリアに配置し、史跡大御堂廃寺跡歴史公園に面した、明るく開放的な店舗です。その場所が目的地となるような、鳥取県立美術館ならではの事業展開や店舗体験に向け準備を進めています。ぜひ、ご期待ください。



ミュージアムショップ

「日常を彩る“お気に入りのアート”との出会いの場」をコンセプトに、鳥取県立美術館ならではの商品を。

| 特長 01 | 鳥取県立美術館オリジナルグッズ

ロゴ・シンボルマークにちなんだ各種オリジナルグッズを、鳥取県出身デザインユニット「FAN (ファン)」とコラボ開発



オリジナルクーピー

シンボルマークの6色+鳥取県ゆかりの6色で構成



川崎富美 / プロダクトデザイナー

鳥取市出身。株式会社良品計画で無印良品の商品デザインを手がけたのち2018年独立。製品デザイン、ショップデザイン、福祉×アート・伝統工芸品の展示ディレクション等を中心に活動。鳥取市在住。



福原奈津子 / グラフィックデザイナー

米子市出身。株式会社佐藤卓デザイン事務所(現・株式会社TSDO)を経て2011年独立。主に、商品や企業、地域のブランディングデザインを手がける。TUNA&Co. | DESIGN & WELLNESS 主宰。東京都在住。



手ぬぐい



トートバッグ



因州和紙 一筆箋

大因州製紙協業組合の楮紙を使用

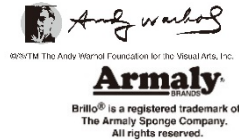


< 附帯事業 >

| 特長 02 | コレクション関連商品

コレクションのポストカードやポップアートに関するグッズなどを販売します

- アンディ・ウォーホル作品関連商品
- [数量限定] 県美コレクション・開館記念オリジナルフレーム切手



| 特長 03 | 倉吉の民芸セレクトショップ COCOROSTORE とのコラボ

COCOROSTORE（ココロストア）と連携し、鳥取県の民藝・工芸を紹介する売り場を設けます。県内3つの窯元（国造焼・浦富焼・福光焼）と美術館オリジナルマグを開発中です。

美術館オリジナルマグ 国造焼（倉吉市）



COCOROSTORE

手仕事によって作られ、職人や作家の息づかいが感じられる品々を、店主が目利きをして選んだ民芸セレクトショップ。倉吉市の白壁土蔵群に店を構え、美術館からも近い。

| 特長 04 | 障がい者アートグッズ

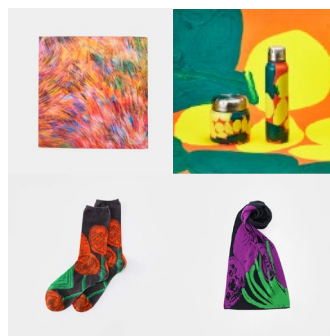
- 県内福祉施設のアート関連グッズ
- HERALBONY(へラルボニー)商品
- 山陰ご当地フォントプロジェクト商品



はまゆう



アートスペースからふる



HERALBONY



[営業時間] 9:00~17:00（美術館の開館時間と同様）

[店舗面積] 約 100 ㎡



ミュージアムカフェ

事業パートナーに株式会社シューティングスターを迎えました。美術館事業と連動した展覧会のコラボメニュー開発や、レセプションでのケータリング等、日常もハレの日も皆様をお迎えします。

食の力でアートをより身近に、そして特別に。

鳥取県立美術館でカフェを運営させていただくにあたり、「食の力でアートをより身近に、そして特別に。」のコンセプトを軸に居心地の良い空間をご提供できるよう努めて参ります。年齢・性別を問わずより多くのお客様の日常に溶け込み、地域を **happy** にしていくカフェを目指して参ります。

株式会社シューティングスター

「美味しいからはじまるコミュニティで地域を **happy** に」の理念を基に、2019年鳥取県倉吉市にカフェレストラン「SEVENDAYS CAFE」をオープン。

店内には現代美術家・永本冬森氏のデザインした絵を壁に描いた個室も完備し、「食×アート」の空間を提供。



(参考画像) SEVEN DAYS Café 店内風景と提供メニュー

[営業時間] 9:00~17:00 (美術館の開館時間と同様)

[席数] 34席 (うち、テラス席 16席)

[店舗面積] 約 60 m²



<基本情報>

<基本情報>

ミッションステートメント

●感動や安らぎを与えらるとともに、主体的に考える機会を提供する美術館

利用者が美術をとらして感動や安らぎを享受するだけでなく、自分や世界について思いをめぐらせる場となります。

●社会に向かって開かれ、多様な価値観を受け入れる美術館

誰に対しても開かれた公共の空間として、多様な価値観をもった人々が集い、お互いの価値観を尊重しあいながら美術を享受する新たな賑わいの場を創り出します。

●与えられた価値に安住するのではなく、新しい価値を生み出していく美術館

美術をめぐって歴史の中で共有された価値を作品として未来に伝えると同時に、新たな価値を生み出し、文化をさらに深めていく原動力となります。

●すべての人にとって、美術を介した能動的な学びの場となる美術館

自ら問いを立てて、一つだけではない答えをを求める学びの場、アート・ラーニング・ラボとしての機能を取り入れ、子どもから大人までが「アートを通じた学び」を深めることに関わります。

●地域に貢献し、県民の誇りとなる美術館

鳥取という土地と歴史が培った文化を世界に発信していく場所であると同時に、地域の中核の美術館として、県民のみならず豊かな文化とともにある誇りの拠り所となります。

事業概要

県内企業を含む 10 社で構成する鳥取県立美術館パートナーズ株式会社（特別目的会社：SPC）が鳥取県と一体となって、設計・建設・運営・維持管理・開館準備を進めています。

[鳥取県立美術館パートナーズ株式会社]

代表：大和リース株式会社株式会社

設計・建設：総合計画事務所、株式会社竹中工務店、株式会社懸樋工務店、株式会社丹青社

維持管理：三菱電機ビルソリューションズ株式会社、山陰リネンサプライ株式会社、富士総合警備保障株式会社、セコム株式会社

運営：アクティオ株式会社、株式会社丹青社

[事業手法] PFI (BTO 方式)

[事業期間] 2020 年 3 月 24 日から 2040 年 3 月 31 日（設計・建設期間、開館準備期間+開館後運営維持管理期間 15 年）

[主な業務分担]

鳥取県：学芸部門（美術品の収集、保存、調査・研究、展示、教育普及業務）

SPC：設計・建設業務、開館準備業務、維持管理業務、学芸補助（ポップカルチャー企画展等）、

施設運営（案内、広報・集客、カフェレストラン、ミュージアムショップ）、管理部門（総務・施設管理等）

[館内体制]





沿革

2014年6月	鳥取県立博物館現状・課題検討委員会を設置
2015年4月	「鳥取県立博物館現状・課題検討結果報告書」を教育長に提言
2015年7月	鳥取県立博物館総務課に「美術館整備推進担当」を設置 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会を設置 鳥取県立美術館候補地評価等専門委員による現地調査及び条件適合性の評価を開始 美術館整備に関する県民意識調査を実施 美術館の建設場所に関する県民意識調査を実施
2017年3月	県教育委員会において鳥取県立美術館整備基本構想を策定 議会において、建設場所（倉吉市営ラグビー場）を含む基本構想を基にした基本計画策定及びPFI手法導入可能性調査等の実施経費予算が議決
2017年4月	鳥取県立博物館に「美術館整備準備室」を設置
2017年8月	鳥取県美術館整備基本計画策定アドバイザー委員会を設置
2018年3月	鳥取県立美術館整備基本計画（中間まとめ）を策定
2018年5月	副知事トップの県有施設・資産有効活用戦略会議でPFI手法（BTO方式）の導入を決定
2018年7月	県議会において、PFI事業者選定準備のための予算が議決 県教育委員会において、鳥取県立美術館整備基本計画を策定
2018年11月	鳥取県教育委員会公募型プロポーザル方式受注者選定等審査会（美術館整備運営事業）を設置
2019年3月	PFI法に基づく鳥取県立美術館（仮称）整備運営事業の実施方針の策定、公表
2019年7月	県議会において、PFI手法による鳥取県立美術館の整備・運営の債務負担行為及び、鳥取県立美術館の設置等に関する条例制定が議決 PFI法に基づく鳥取県立美術館整備運営事業の特定事業の選定、公表 鳥取県立美術館整備運営事業の調達公告（総合評価型一般競争入札） 重点対話 県民参加型公開プレゼンテーション等
2020年1月	鳥取県立美術館整備運営事業者の落札者決定、公表
2020年2月	PFI法に基づく客観的評価の結果の公表
2020年3月	県議会において、事業者との事業契約の締結及び指定管理者の指定が議決 PFI法に基づく契約に関する事項の公表
2020年4月	美術館整備局を新設
2021年12月	設計完了
2022年1月	建設工事着工
2022年2月	安全祈願祭、起工式
2023年3月	ロゴ・シンボルマークを決定
2024年3月	竣工、建物引渡し
2024年4月	美術館の所管が教育委員会から知事部局に移管 竣工記念式典
2025年3月30日	公の施設として鳥取県立美術館の設置、開館（予定）



開館時間・休館日・料金・アクセス情報

[開館時間] 9:00～17:00 夜間開館日は21:00まで

[休館日] 月曜日、年末年始（12月29日～翌年1月3日）ほか

※月曜日が祝日の場合は翌平日を休館日とします。

※休館日は変更となる場合があります。

[観覧料] 企画展…展覧会ごとに異なります

コレクション展…一般400円（団体320円）学生・70歳以上200円

※高校生以下は無料、障がいのある方・要介護者およびその介護者は無料

[アクセス]

◎倉吉駅からバスで約10分「県立美術館前」下車（バス停は開館までに設置予定）



◎倉吉駅まで

大阪駅からJR特急で約3時間

岡山駅からJR特急で約2時間40分

鳥取砂丘コナン空港からバスで約45分

米子鬼太郎空港からJR特急等で約1時間10分

◎車をご利用の場合

岡山・広島方面 米子道湯原ICから約50分

大阪方面 中国自動車道院庄ICから約1時間

●駐車場：美術館専用110台（大型バス2台、障がい者優先2台、ハートフル2台）

[住所] 〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町2-3-12

[電話] 0858-24-5442

[FAX] 0858-24-1441

[WEB] <https://tottori-moa.jp>



その他



メインビジュアルショートムービー (15 秒)

<https://youtube.com/shorts/qekOKKg4kmc?si=s5-BA15OCCObU9Xp>



美術館紹介ムービー (1分34秒)

https://youtu.be/BU95_-ludq0



建設記録ムービー「美術館ができるまで」 (6分16秒)

<https://youtu.be/fl1Ds4EA-GA>



MUSEUM START BUS 紹介動画

<https://youtu.be/Uj0vPWXc5-M?si=zacN8LL4xhNfwPuk> (3分)





【広報用図版】

広報用図版として本リリースに掲載した画像のうち一部をご用意しております。画像の利用は、美術館の広報又は紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（デジタルメディアを含む）の記事内のご使用に限ります。

お貸出しをご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、申込フォームにて送信もしくは必要事項とあわせて図版名をメールにてご連絡ください。

■申込フォームでの申請

<https://forms.gle/bHCJzpxuQW4R8yP86>

必要事項を記入いただくと、共有フォルダをご案内します。

■メール必要事項

御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日／連絡先（電話・メールアドレス）

■貸出条件

- 作品画像には作品情報（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、色彩変更、編集その他の改変はご遠慮ください。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトのURL、DVD、CD等をお送りください。
- 記事の転載その他のお貸出しした画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。

【問合せ】鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当（小島・石山）

Email | info@tottori-moa.jp WEB | <https://tottori-moa.jp>

TEL | 0858-24-5442（平日 9 時～17 時）